

北海道開発局就業体験実習(インターンシップ)について

北海道開発局では、実務体験を通じて土木工学の生きた知識を学生に習得してもらい、さらには建設業界の果たす役割の重要性と魅力を、将来を担う若者に伝えることを目的として、学外実習として1週間から2週間程度の就業体験実習生の受け入れを行っています。

令和2年度からは、学生からのニーズを踏まえて短期(3日間程度)で複数の事業について学ぶことができる「短期実習」も開始し、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行いながら実施しています。

実習対象

- ・大学生 及び 高等専門学校生
(大学院及び短期大学含む)
- ・高等学校生 及び 専門学校生

期間

7月下旬～9月下旬

部門

河川事業、道路事業、港湾・空港事業、
農業農村整備事業、電気通信事業、
機械事業、営繕事業

実習内容例

- 北海道開発局の事業概要説明
- 現場見学
…工事現場や管理施設を見学してその役割や日々の管理などについて学んでもらいます
(ダム、堤防、道路、橋梁、トンネル、港、空港、頭首工 など)
- 実際の業務
…職員が実際に行っている各種調査や業務を体験してもらいます
(工事現場監督、安全パトロール、流量観測調査、堤防点検、道路点検、図面作成 など)
- 意見交換会
…職員の生の声をきいて職場の雰囲気を感じてください
- 実習成果の発表 など

●現場見学(ダム)



●測量調査実習



●ICT建機操作実習



●現場見学(橋梁)



●流量観測調査実習



●3DCAD操作実習



実習生の声

- ・想像より地域に密接した事業が多く、興味を持ちました。
- ・公務員は堅いイメージでしたが、話してみると優しい人が多く、仕事のスケールの大きさは予想以上でした。
- ・仕事のスケールが大きく、北海道のために貢献してるという実感が持てると思いました。
- ・いろいろな事業に取り組んでいて、多面的に北海道のインフラに関わることができる、やりがいのある職場だと思います。
- ・公務員なのでデスクワークが多いと思いましたが、思ったより現場の仕事があることがわかりました。
- ・自然物や構造物を維持管理することで、人命を救うことにつながるという事にとってもやりがいを感じました。

北海道開発局就業体験実習(インターンシップ)の受入状況

事業への理解の醸成や近年の建設分野における担い手不足を踏まえ、より広く事業への関心、理解を深めるため、令和2年度より受入学校の対象範囲を拡大し、さらにニーズを踏まえて短期(3日間程度)で複数の事業について学ぶことができる「短期実習」を開始し、実習の多様化を図りました。令和2年度からは新型コロナウイルスの感染拡大の状況下においても、感染拡大防止対策を行いながら、実習生の受入を行っています。

受入数

令和2年度 145名

- 大学生・高等専門学校生 … 95名(学校数;15校)
- 高校生 … 50名(学校数;5校)

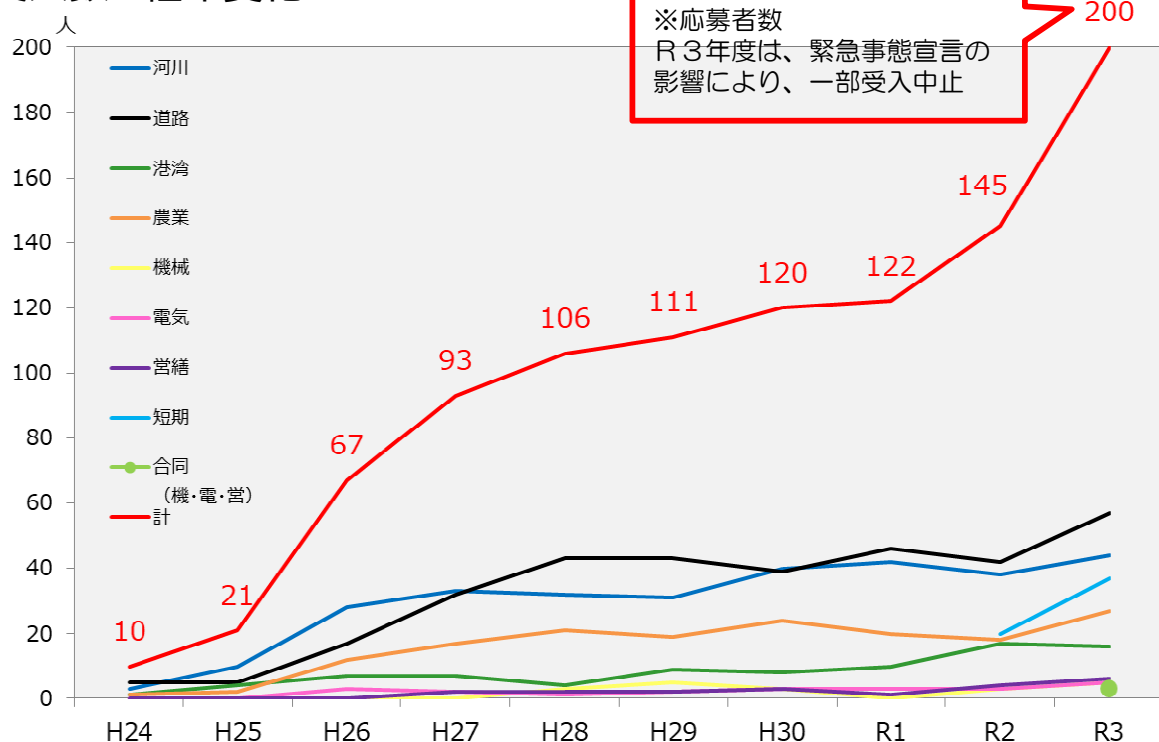
令和3年度 200名

- 大学生・高等専門学校生 … 146名(学校数;21校) 内、受入中止 73名
- 高校生 … 54名(学校数;6校) 内、受入中止 50名

- インターンシップ実習の様子
- 現場見学 →
- ↓ 樋門操作実習



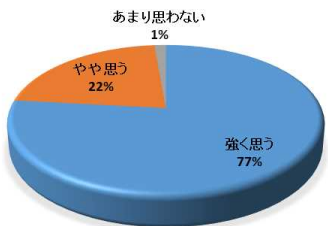
■ 受入数の経年変化



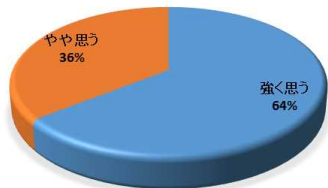
■ 令和3年度実習生アンケート結果 (抜粋) (対象; 大学生等 回答率; 100%)

● 実習内容 (複数回答)

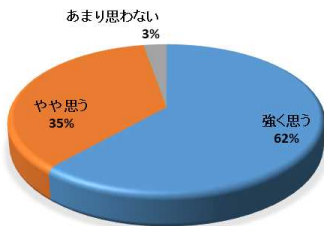
● 国土交通省の業務内容が理解できた



● 業務のやりがいや充実感を感じることができた



● 職場の雰囲気を感じることができた



● 実務に役立つ知識や技術が身についた

